

福祉文化現場セミナーのご案内

小作農民の生活と福祉文化～木崎村小作争議 100 周年から学ぶ～

全国の日本福祉文化学会会員のみなさん、こんにちは。

明治から大正時代にかけて、不況や不作が重なり生活が苦しくなった多くの農民が、先祖から受け継ぎ耕作してきた田畑を地主に売り渡し、その土地を借りて耕作する小作人になりました。小作人は、耕地の使用料として、収穫の半分以上にもなる高額な小作料を地主に納めなければならず、その生活は苦しいものでした。

今からちょうど 100 年前の 1922 年、新潟県の当時の木崎村の小作人たちは小作組合を結成し、地主に対して小作料の軽減を求めます。これが木崎村小作争議の始まりです。この動きは中央の社会運動家や文化人などの支援も受けて、苦しい暮らしの改善や村の民主化、農村にふさわしい教育などを求める農民運動へと拡大していきました。

(「[新潟市北区役所だより]2022.5.15 号から一部抜粋し、編集)

このような木崎村小作争議から学ぶ 100 年に 1 度のセミナーへ、全国の会員のみなさんの参加をぜひよろしくお願ひします。

■日時 2022年7月2日(土) 11時30分～17時

(感染症防止対策を実施し対応します。)

■日程 11:30 開会(新潟市北区郷土博物館)

挨拶・基調説明

「小作農民の生活と福祉文化～木崎村小作争議 100 周年から学ぶ～」

日本福祉文化学会理事 渡邊 豊(新潟医療福祉大学)

視察「生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展～史料でさぐる小作と地主それぞれの思い」

(各自で昼食)

14:00 講演(新潟市北区豊栄地区公民館)

「地域社会と「人間らしさ」のゆくえ～木崎争議と木崎村の歴史を考える視点～」

信州大学人文学部教授 大串 潤児 氏

16:00 フィールドワーク 小作農民が作った無産農民学校跡 等

17:00 閉会挨拶 日本福祉文化学会理事 五十嵐 真一(柏崎市役所)

■参加費 無料

■申し込み 6月25日(土)までに、下記へ申し込み願ひします。

「福祉文化現場セミナー 小作農民の生活と福祉文化」実行委員長 渡邊 豊

mail: yutaka-watanabe@nuhw.ac.jp